

シャンティ国際ボランティア会
ラオス事務所

2008-2010年度 事業計画

1. 図書館と青少年事業
2. 学校教育支援事業

ラオス人民民主共和国 地図



ラオス人民民主共和国 地図

ねずみ色の県は SVA の活動地域を示す

<p>1. 事業名 図書館と青少年事業</p>
<p>2. 対象地域の教育状況</p> <p>2006年に行われたラオス人民革命党の第8回党大会では、指導者層の刷新が行われ、大統領、首相、以下主要閣僚の交代があった。しかし、1986年に定められた「新改革路線」の継続と、ラオス人民革命党による指導体制維持には変化がなく、2020年までの最貧国脱却、2010年までの貧困の基本的解決などの長期計画が発表された。</p> <p>教育の分野でも同様に3つの柱を定め、「万人のための教育 Education For All」の行動計画に沿って、2020年までの教育開発を進めていくことは、いままでの方針と変わらない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育への公平なアクセスの拡大 2 教育の質と妥当性の向上 3 教育行政とマネージメントの強化 <p>しかしラオスでは未だに実行されていない分野、弱点などが多くあることも事実で、教育開発は多くの課題が存在する。たとえば、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 就学年齢に達しても学校に通えない子ども 2 貧困地域での多くの無識字者 3 貧困地域と比較的裕福な地域との教育格差の拡大 4 学校教育の指導の質の低さ 5 公務員、特に教師の待遇、給与の低さによる生活の貧しさ、社会の中での教育関係組織や教師の存在の低さ、教師の不足 6 責任感の低さ、古い考え方による旧態依然の指導法などである。 <p>一方、図書館活動を管轄する「情報文化省」は、政府からの予算配分は2%強とラオスの省庁の中で最も低く、図書館振興に対してもほとんど予算はない。政府の予算とイニシアティブでは図書館分野の開発、発展はほとんど期待できない状況である。</p> <p>しかし、一方、2006年には長年の願いであった「ラオス図書館協会」が設立され、現国立図書館長のコンドウアン・ネッタヴォン氏が会長に就任し、2007年からの実質的な活動を予定している。</p> <p>今後、図書館協会を軸に、全国に公共図書館、専門図書館、学校図書館、コミュニティ図書館などのネットワークが拡大していくことが期待され、SVAの役割は更に期待されている。</p>
<p>3. 他の援助機関の動向</p> <p>青少年、特に子ども向けの読書推進活動をおこなうラオスの政府機関は、ほぼ国立図書館のみといってよく、国立図書館が1990年から行っている「ラオス全国読書推進活動」の実施主体である。しかし国立図書館への政府からの予算配分は、一年に200ドルほどしかなく、図書購入費などは毎年ゼロという状況である。</p> <p>読書推進活動には、ユニセフ、国際NGOなどが資金提供をしてきたが、2000年以降図書箱の配布などで継続的に読書推進活動に協力しているのは、SVAと日本のNGOである「ラオスの子ども(ALC)」のみである。</p> <p>「ラオスの子ども」はJICAの草の根技術協力資金により、小学校への図書箱配布と図書補充を継続している。また、「ハック・アーン」という読書室を小学校内に設置する活動を続けている。それ以外に、絵本や図書の出版、研修会などを継続的におこなっている。</p> <p>アメリカのNGO(Room To Read)は2005年から事業を始め、ラオス国内3県(サイヤブリ、サラワン、ポンサリ)を対象に、学校図書室設置、ラオス語図書出版、学校建設などの事業を行なっている。2006年には、24校の小規模学校建設、150箇所(箇所)の学校図書室設置、16タイトルのラオス語図書の出版を行った。</p>
<p>4. プロジェクトの必要性、妥当性</p> <p>読書推進、図書館分野の事業は、いままでどちらかというと学校教育分野に比べ、優先度が低いとされ、政府内の関心も低かったが、2006年の党大会後に開かれた国会では、政府の長期方針の重点項目のなかに「図</p>

書館の設置」などが取り入れられ、政府も、社会教育分野、図書館の重要性について理解し始めたことの現われと理解できる。

ヴィエンチャン特別市では、学生、生徒、青少年、教師、公務員などの読書あるいはリファレンスへの要求が年々増加している。2006年に開館した「ヴィエンチャン市公共図書館」は、開館して6ヶ月ほどであるが、利用者の数は増加の一途である。

また、2005年から開始した「全国公共図書館支援事業」(JICA草の根パートナー)の中間評価によれば、地方の公共図書館への魅力的な図書の新規と備品の支援、図書館員の研修などを通じて確実に効果が現れており、2008年下旬の第1次フェーズまでにはっきりとして成果をあげられると予想しており、更に2008年から3年間、第2フェーズの継続を含めて検討中である。

また当会の図書館、読書推進への長年のコミットメントにより、情報文化省出版図書館局、国立図書館、ラオス図書館協会などとの協力関係も強固になり、今後ラオス全国の図書館ネットワークの拡大のために、当会の働きが期待されている。

5. 対象地域、受益者数

対象地域

ヴィエンチャン首都
ルアンパバーン県
シェンクアン県
ヴィエンチャン県
サワンナケート県
チャンパサック県
今後県立図書館を建設する2-3の県

受益者層

幼児、小学生、中高校生、大学生、公務員、一般市民、僧侶、障害児者などあらゆる年代層に裨益するが、主な対象者を幼児から中高生とする。

ヴィエンチャン市図書館 来館者 週 1000 人×50 週 のべ 50,000 人
県立公共図書館 ルアンパバーン・サワンナケート他 3 県 週 300 人×50 週×5 館 のべ 75,000 人
図書箱配布 シェンクアン県 小学校30校×平均児童数 200 人 6,000 人×3 年 18,000 人
移動図書館 ヴィエンチャン 週 300 人×40 回 のべ 12,000 人
子どもの家 ヴィエンチャン 5 歳～15 歳 週 600 人×50 週 のべ 30,000 人

6. 実施期間

2008 年から 2010 年 3 年間
(1992 年から事業開始)

7. ハンドオーバーする相手と持続可能性

ラオス国立図書館
ヴィエンチャン特別市教育局
各県情報文化局
各県教育局

8. 上位目標

子どもと若者に未来を選択する能力と機会があり、自分の人生に誇りを持つようになる。

10. プロジェクト目標と指標

目標：読書の機会と若者の社会参加の機会が保証される

指標： 1)2007年の図書販売の数が事業開始まえより20%以上増加する
2)ボランティア活動や伝統文化活動が事業開始前より活発になる

11. 成果、活動、指標

1 図書館活動

成果

- 1)図書館の利用者が増加する
- 2)研修を受けた図書館員が増加する

指標

- 1)毎年図書館利用者数が前年度より10%以上増加する。
- 2)2010年までにすべての公共図書館の図書館員の90%が図書館運営に基本研修をうける。

活動

1-1 全国公共図書館支援 (JICA草の根パートナー事業第1フェーズ 2005-2008)

- ・ 全国6ヶ所の県立公共図書館(ヴィエンチャン首都、ヴィエンチャン県、ルアンパバーン県、シェンクアン県、サワンナケート県、チャンパサック県)の運営、図書の補充、図書館員研修を行なう。
- ・ 2007年に開館したヴィエンチャン県図書館に引き続き、2010年までに3館の県立公共図書館を建設支援する。候補地は、カムムアン県、ウドムサイ県、サイヤブリ県。規模としては約250-300㎡。

1-2 移動図書館車(おはなし・モバイル)

- ・ SVA 移動図書館車は、ヴィエンチャン市中心部4郡で巡回サービスを実施。また、週に1回から2回、ストリートチルドレンや物乞いの子ども、最貧困地域の子ども達への特別サービスを実施。
- ・ 国立図書館の持つ移動図書館車への運営費支援と研修会実施、移動図書館活動の手引きの作成

1-3 図書館員研修

- ・ 全国の図書館の図書館員を対象に、図書館員レベルアップ研修を実施

1-4 図書館協会支援

- ・ 2006年に設立されたばかりのラオス図書館協会の運営支援
- ・ ニュースレター発行、外国人会員募集、総会開催支援など

2 図書箱配布と学校図書室

成果

図書へのアクセス可能性が増大する

指標

- 1)図書箱を持っているクラスタースクールが前年より増加する。
- 2)図書にアクセスできる市民の数が前年度より10%以上増加する。

活動

2-1 図書箱配布

- ・ 2007年から2009年までの3年間はシェンクアン県にてクラスター所属校を対象に配布。4日間の研修会。1年に100箱を配布する。

2-2 学校図書室設置

- ・ サワンナケート県を対象に、以前の図書箱配布校を調査の上、良い活動を行なっている学校で空教室のある学校に、図書棚と図書の支援をする。1年に2-3校。

3 出版活動

成果

図書の出版数が増加する

指標

図書全体の出版数が前年度より10%以上増加する

活動

3-1 絵本出版

- ・ 年間2-3タイトルの絵本を出版(1タイトル3,000冊)。下記のコンテストなどでの優秀作を積極的に出版し、新しい作家、画家の振興に寄与する。

3-2 作家養成研修

- ・ 若い作家を養成するための研修会を年1回実施。

3-3 コンテスト

- ・ 青少年を対象にした、絵本や小説、詩などのコンテストを実施する。

4 文化活動

成果

多くの子どもが自国の文化を理解し、それを継承する。

指標

全国の子ども文化センター、子どもの家などで行われる文化関係のクラスが前よりも増加する。

活動

4-1 教育と文化のための子どもの家 リノベーション

- ・ 1996年に自治労の支援で開設され、以降10年間大きな成果と多くの利用者にサービスを提供してきた「子どもの家」であるが、施設の老朽化が進行し、雨漏り、壁のひび割れ、崩れ、天井の破損など多くの問題が起こっている。
- ・ 今現在も週に500人から600人の利用者があり、積極的に利用されているが、一方、ニーズに対し施設やサービスが十分ではない。特に子ども図書館は施設、スタッフ、サービスともSVAのプレゼンスが必要。
- ・ 現在の子どもの家の土地、建物の管理はSVAに任されており、ヴィエンチャン首都の中心部にあるこのセンターを更に有効に活用し、よりレベルの高い「新子どもの家・総合子どもセンター」としてリノベーションすることによって、今後のSVAラオスの重要な拠点となりうる。さらに現在事務所に敷設する「子ども図書室」は老朽化と場所の狭さが大きな障害となっていることもあり、子どもの家図書館に統合したいと考える。

5 幼児教育支援

成果

研修を受けた幼稚園教諭が増加する。

指標

2010年までにヴィエンチャン首都内の220園の幼稚園の教諭のうち50%がなんらかの研修を受ける。

1-1 ドンカムサーン教員養成学校支援

- ・ 2007年に建設支援した「ドンカムサーン教員養成学校内モデル幼稚園」への支援を継続する。教員対象の研修会実施、教材の支援、カリキュラム開発支援などである。
- ・ ドンカムサーン教員養成学校の「幼稚園教諭養成課程」と「小学校教諭養成課程」の中に、ラオス国内外のソース、教育関係者による特別講座を設ける。現在まで公立の幼稚園、小学校でほとんど行なわれていない、音楽、文化、芸術、体育などの分野の講座とする。

5 青少年活動**成果**

研修を受けたユースリーダーが増加する

指標

ユースリーダーが活動を自分達で実施できている

活動**5-1 ユースボランティア活動**

- ・ 年間に約40名のユースボランティアを選抜し、リーダーシップトレーニングやスキルトレーニングを行う。

5-2 青少年キャンプ

- ・ 両親がいなかったり、養護施設に預けられている子どもや、障害児など社会的にハンディを持っている子どもと、一般の子ども達との合同キャンプを実施。

12. 実施体制**SVA**

事業コーディネーター	1名
アシスタントコーディネーター	1名
図書館スタッフ	5名
アシスタント	2名

カウンターパート

国立図書館(情報文化省)
子ども文化センター(情報文化省)
各県情報文化局、ないしは教育局

13. モニタリング・報告の方法

常設図書館、公共図書館については、フォーム記入と利用者統計により、利用度の変化を知る。
図書箱配布については、配布1年後のフォローアップ研修、学校訪問、県教育局へのインタビューなどを行う。
それ以外の活動については、関係者のインタビューや適宜アンケートなどでモニタリングを行う。

14. 評価の計画

毎年12月にSVAスタッフ、国立図書館、情報文化省出版局、教育省などの政府スタッフで評価会議を開催。
その結果はSVA各国事務所、ラオス国内関係者に配布する。

<p>1. 事業名 学校教育支援事業</p>
<p>2. 対象地域の教育状況</p> <p>「万人のための教育」(Education For All)達成のための教育開発は、「2020年までの教育戦略ビジョン」にしたがって行なわれている。2006-7年度の教育セクターの予算は、政府歳出の13.96%まで拡大してきているが、それでもなお、学校校舎数の不足、教材の不足、教師の数と質の不足、少数民族の子ども達や特別なニーズの教育はいまだ十分ではない。2006年度の小学校純就学率は83.9%、小学校数8,654校、そのうち完全小学校3,828校(44%)。地方と都市の教育状況のギャップも大きく、ヴィエンチャン首都の純入学率は98.5%に達するのに対し、ポンサリー県、サイソンブーン特別区、セコン県はそれぞれ44%、46%、37%である。</p> <p>2006年7月に教育省が発表した2006-07年教育開発計画によれば、小学校の6-10歳児の就学率を最低で86.1%に引き上げること、スクールクラスター制度を拡大すること、現職教員研修に力を入れる、私立学校やプライベートセクターを振興することなどがあげられている。現在全国には353のスクールクラスターが存在する。</p> <p>サラワン県</p> <p>サラワン県はラオスの南部に位置し、人口の50%を少数民族の占める県である。</p> <p>サラワン県ワピー郡、ラオンガム郡はヴィエンチャン特別市から南に約800キロの場所にある。住民の中心の職業は農家(稲作)である。</p> <p>ワピー郡は県の中心地から約40キロ西に離れており、山がちな郡で、少数民族が多い。ラオンガム郡は県中心地から東に45キロ離れている。丘のような低い山が多く、住民の職業はコーヒーや果樹農家である。この2郡は県の中心部からもタイとの国境からも離れており、そのため商売なども拡大しない。</p> <p>サラワン県のクラスタースクールはユニセフからの支援を受けているところが多い。しかし上の2つの郡のスリヤクラスタースクールは国際NGOからも支援をうけていない。そのため学校校舎、教科書、教師の質、マネージメントの面でも状況は大変悪い。少数民族の児童の通う小学校に、同じ少数民族の教師がいることは少なく、ラオス語しか話せない教師と、自分の民族の言葉しか話せない児童との間で会話がなりたたない、という大きな問題もある。</p> <p>ボリカムサイ県</p> <p>ボリカムサイ県ターパバーツ郡「ターボッククラスター」と「バートウワイクラスター」はヴィエンチャン特別市から約100キロ東南方向にある。主な職業は稲作農家で、わずかに自宅を小さな商店にしている人もいる。ターパバーツ郡は今までに教育面での支援をうけたことがない。ラオス政府が学校建設に努力をしているが、ニーズと比べると十分とはいえない。もっとも不十分なのは教材の不足である。教科書についていえば、平均で5,6人の児童に一冊の教科書しかない。また、上記二つのクラスターには一箇所の図書室もなく、ターパバーツ郡にも未だに図書室はない。</p> <p>また、二つのクラスターの教師は教師養成学校を卒業してから、未だ一度も関連の研修会を受けたことがない。そのため、指導の質は低く、十分に児童の興味を引き伝えるような授業をしていない。</p> <p>バートウアイ・クラスターは全部で12校の小学校からなっており、そのうちの6校が完全小学校で、残りは不完全小学校である。</p>
<p>3. 他の援助機関の動向</p> <p>アジア開発銀行(ADB)はヴィエンチャン首都、ヴィエンチャン県、サワンナケート県、チャンパサック県で小学校、中学校の教育改善事業をおこなっている。ADBとAus-Aidは特に女の子の教育拡大の事業(Khongkan Dek-Ning)をポンサリー、ルアンナムター、ウドムサイ、ホアパン、シエンクアン、ボリカムサイ、カムムアン、サラワン、セコン、アタプー各県で実施中である。この事業は複式学級を導入した、2教室、ないしは3教室の小規模学校の建設をおこなっているが、2007年で終了予定である。</p> <p>ユニセフは、ラオス南部で、スクールクラスターの支援と子ども中心アプローチの導入により「チャイルドフレンドリースクール」事業をおこなっている。しかし今後対象県を北部に移していく予定である。EU、フランス政府、SI</p>

DAは中等教育、高等教育のカリキュラム改善事業を行なっている。スクールクラスター支援については、ユニセフとセーブザチルドレン・ノルウェーSCN(レッドバーナ)が支援しているが、教育省は支援が重ならないように調整している。

サラワン県については、ユニセフとADBの支援は、撤退ないし終了の予定である。アメリカのNGO「Room To Read」は学校図書室と学校建設の支援をしているが、住民の負担が大きい。「民際センター」は奨学金を支援している。

ボリカムサイ県ターパパーツ郡については、4つのスクールクラスターがあり、SCNが2つ、SVAが2つをそれぞれ支援している。

4. プロジェクトの必要性、妥当性

クラスタースクール制度の拡大は、ラオス政府教育省の教育戦略の一つであり、クラスタースクールの設置はラオスにおいては大変必要性が高いといえる。クラスターシステムがうまく活用されれば、クラスター内のすべての学校が、限られたリソースを有効に利用できる。教育省は国際機関、NGOの支援をうまく各クラスター、各学校に割り振り、重複しないように調整している。また、各団体の強みを生かせるように配慮している。

学校建設は未だニーズが高い。教育省の統計によるとすべての小学校のうち、35.4%が良い状態、32.37%があと数年で建て替え等が必要な状態、32.23%がすぐにも建て替えが必要な悪い状態であるとしている。ラオス全国では、あと1,787校の小学校校舎が必要とされている。我々のターゲットであるボリカムサイ県では、54校、サラワン県では184校が必要とされている。

現職教員の研修も必要である。現職の教員はほとんど新しいカリキュラムやメソッドを研修する機会がなく、自己を研鑽する機会にも欠けている。

また、少数民族への教育開発は緊急の課題である。少数民族の多くは開発の遅れと貧困の問題に直面しているからである。低地ラオ人と少数民族の間の教育状況の格差は大きい。その大きな理由は言葉の問題に起因している。

SVAの行なっているスクールクラスター支援は、学校建設と教員研修と図書館活動を統合させたSVAらしい、強みの事業である。SCNはクラスター支援はしても、学校建設はおこなっていない。またユニセフはスクールクラスターと学校建設を別々に支援している。SVAのこの事業形態は実験的におこなったポンシー村でのプロジェクトの経験に寄るところも大きい。

5. 対象地域、受益者数

クラスター支援

サラワン県

スリヤ・クラスター(ワピー郡)

小学校教師 61人(うち女性36)
 小学児童 1,684人(799)
 小学校数 15校(内完全校5校)
 クラスター内の村数 17

ワピー郡内のクラスター数 2

ワンプアイ・クラスター(ラオンガーム郡)

小学校教師 34人(うち女性13)
 小学児童 2,406人(1,111)
 小学校数 18校(内完全校5校)
 クラスター内の村数 37

ラオンガーム郡内のクラスター数 2

ボリカムサイ県

ターボック・クラスター(ターパパーツ郡)

小学校教師 51人(うち女性38)
 小学児童 1,114人(523)
 小学校数 10校(内完全校5校)

クラスター内の村数 10
 ターパバーツ郡内のクラスター数 4
 バートゥアイ・クラスター(ターパバーツ郡)
 小学校教師 30人(うち女性16)
 小学児童 628人(280)
 小学校数 7校(内完全校4校)
 クラスター内の村数 7
 ターパバーツ郡内のクラスター数 4

民話を通じた初等教育改善活動

サラワン県全小学校 486校

教師 1245人

小学生 約20,000人

6. 実施期間

2008年から2010年

7. ハンドオーバーする相手と持続可能性

ワピー郡、ラオンガム郡教育局

ターパバーツ郡教育局

教育省一般教育局

8. 上位目標

適正年齢の子どもが小学校を卒業できる

10. プロジェクト目標と指標

目標: 初等教育の質が向上する

指標: 1) 対象地域の小学校の内部効率が向上する。(欠席率、ドロップアウト率が減少する/進学テストの合格率が上昇する)

2) 児童が地域の文化や伝統をよく理解している。

11. 成果、活動、指標

成果

1) 小学校の施設上する。

指標: 指導のスタンダードを理解している教師が増加する。

2) 適当でさまざまな教材が設置される

指標: 学校内の教材の数と種類

3) 保護者の子どもの教育に対する態度が向上する。

指標: 教育に対する家計の予算額。保護者会に参加する保護者の数の増加

4) 読書の機会が保障され、確かになる。

指標: 図書室の数。子どもの図書利用率。教室での教師のおはなし活動などの頻度

活動

事業評価とヴィエンチャンに程近い県での活動拠点の必要性から、ターボッククラスターとパントウアイクラスターにも小規模の支援を継続している。またサラワン県の2郡については、NGO支援無償資金の調達の遅れから2006年11月ようやく事業が本格的に始まったばかりであり、今後3年間継続支援の必要がある。

1 建設

1-1 小学校建設

2県3郡(ボリカムサイ県ターパバーツ郡、サラワン県ワピー郡、ラオンガーム郡)で3年で6校の完全小学校(5教室、1職員室)と3教室小学校を3年で9校建設する。対象地域は、上記3郡を主とするが、3郡のニーズがほぼ達成した時点で、サラワン県、ボリカムサイ県それぞれから新しい対象郡を一郡ずつ選択することにする。また、そのときの政府からの要請、SVAと支援者の相談の中で、他県他地域に建設もありうる。ただし、経済的貧困地域、少数民族の多い地域を優先的に選択する。

1-2 寄宿制学校建設支援

ラオスには学校から遠く山の中に住む少数民族の児童や両親のいない児童などが寄宿しながら学ぶ「寄宿制学校」が多くある。その多くは建物も老朽化し、教育費だけでなく、食費や生活費に困窮しているところも多い。3年間に1校ないし2校、そうした寄宿制小中学校の校舎あるいは寄宿舎の建設支援を行う。支援した学校には、その後もスタディツアー、交流、視察などの関係を保ち、日本から来たゲストとの交流や研修のセンターとすることを想定している。

2 研修

2-1 クラスタースクール・マネージメント研修

スクールクラスター長、各学校長、教科教師、リソースセンター責任者を対象にスクールクラスターの運営についての研修をおこなう。

サラワン県…2郡それぞれ1年に1回×2年間(2008-9年)。計4回の開催。各回5日間。

ボリカムサイ県…すでに実施済み。

2-2 クラスター内教育指導官研修

クラスター内教育指導官研修は、カリキュラムの中で主要な4つの教科のうちひとつに優れた教師を選び、クラスター内の各学校を巡回し、視察し、指導法に対しアドバイスを与えられるようにするものである。

サラワン県…2郡それぞれ1年に1回×3年間(2008-10年)。計6回の開催。各回5日間。

ボリカムサイ県…すでに実施済み。

2-3 住民と保護者会研修

保護者会のメンバーに対し、保護者会の役割と責任、子どもの教育への理解と協力を求め、多くの子どもが学校に通うように保護者会も努力することを指導するものである。

また、SVAのリソースである「謄写版」と「LGM(注)」を利用し、村民の識字向上と経験共有のための活動を行う。

2県4クラスターそれぞれ1年に1回×3年間(2008-10年)。計12回の開催。各回4日間。

(注)以前ユニセフの依頼によってSVAが行なったトレーニングと教育開発の手法。LGM(Local Generated Material)とは、村民や地方住民が自分の経験や知識を自分の力で文章にし、それを謄写版を活用して印刷、冊子ないし図書の形にし、地元の図書館や学校などで誰でもが読めるように保管する。主に成人に対し有効と考えられる。

2-4 リソースセンター教材開発研修

図書室兼リソースセンターの担当教師に対して教材の開発や謄写版を利用した教材の作成方法などを研修する。

2県3クラスターそれぞれ1年に1回×3年間(2008-10年)。計9回の開催。各回3日間。

2-5 レビューミーティング

各クラスターで、レビューミーティングをおこなうことにより、スクールクラスター、村人それぞれが、何を達成したか、また今後の課題は何かを確認し、次のステップにつなげる。

3 少数民族支援教材開発**3-1 民話を通じた初等教育教材**

セコン県で実施した「民話を通じた教育改善事業」の経験とリソースを生かすため、サラワン県の少数民族の言語、しきたり、文化、信仰、生活などを調査し、その情報を使って小学校での教材開発と配布をおこなう。2007-08年にはサラワン県の教材は製作完了予定で、以降研修会と配布をおこなう。

また、更にこの活動の成果をアタプー県に拡大していく。アタプー県はセコン、サラワンと並び南部の県で少数民族の割合が高い。5つの郡から成り、191校の小学校がある。(うち完全校83校)

教材の種類

- 1) ラオス語の基本を絵を使って学ぶ「フラッシュカード」200 セット／裏面には主要な少数民族の言葉でその単語を何と言うかを記載し、ラオス語しか理解しない教師が民族語しか理解しない児童に指導できるようにしたもの
- 2) 少数民族の民話紙芝居 200 セット／ターゲット少数民族の民話を採集し、紙芝居に編集。
- 3) サラワン県教育文化地図とガイドブック 200 セット
- 4) 民話絵本

12. 実施体制

SVA

事業コーディネータ 1名

スタッフ 2名

13. モニタリング・報告の方法

毎週ないしは隔週で活動のたびにモニタリングを行い、その結果、状況は毎月の事務所の定例会議で報告する。

14. 評価の計画

毎年12月にSVAスタッフ、教育省一般教育局、ボリカムサイ県、サラワン県の政府スタッフで評価会議を開催。その結果はSVA各国事務所、ラオス国内関係者に配布する。